

医師

子宮筋腫と子宮内膜症



産婦人科部長 加藤 千豊

最も代表的な産婦人科疾患である子宮筋腫と子宮内膜症について。

子宮筋腫とは

子宮平滑筋の良性腫瘍で、女性ホルモン(卵胞ホルモン)によって増殖します。

子宮内膜症とは

子宮内膜が子宮内腔以外の異所性に増殖する病態で、月経により生ずる炎症です。

両疾患の症状は

子宮筋腫：過多月経(月経血が多い)、月経痛、貧血。

子宮内膜症：月経痛、性交痛、過多月経、不妊、貧血。

症状はよく似ています。両疾患を合併している方も多くみられます。筋腫の症状は、筋腫の大きさよりも筋腫のある位置によって大きく異なります。子宮の内腔に近く、影響を及ぼす場所にある筋腫は、小さなものでも強い症状を起こします。内膜症は、

筋腫よりも比較的若い女性に多いため、痛みだけでなく不妊が大きな問題となります。

子宮筋腫の治療は手術療法で、挙児希望のある方(赤ちゃんがほしい方)は筋腫のみを摘出する筋腫核出術、挙児希望のない方は子宮を摘出する子宮全摘術を行います。子宮を摘出すると更年期が来ると思われる方もありますが、卵巣を摘出しない限り更年期は生じません。(もっとも、その年齢が来れば卵巣の有無に拘わらず訪れるかもしれません。)手術は症状の程度に応じて行いますが、無症状でも筋腫が大きければ行います。筋腫は良性とはいえ腫瘍です。閉経しても大きなものはなくなりません。逆に、癌より悪性の強い肉腫が生まれるかもしれません。そのため、ある程度の大きさの子宮筋腫は手術するのが一般的です。

★「フィリア・レター」は、中部労災病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。